

令和7年度2学年対象グローバル教育講演会について

1. 実施概要

(1) 実施の目的

外交の最前線である外務省主催の「高校講座」を実施することで、外交政策や国際情勢に対するグローバルな視点に立った理解の促進と意識の醸成を図る。また、外務省の具体的な仕事内容を知ることで生徒自身の同省の業務内容への理解を深めるとともに、生徒の将来的な進路選択のきっかけとなることも期待する。

(2) 実施日時

令和7年10月20日（木）6校時

(3) 講演者

外務省アフリカ部アフリカ第一課 課長補佐 大谷壮矢

(4) 講演のテーマ

外交官という仕事～日アフリカ外交の現場から～

2. 講演会の内容（概略）

- ・「外交」とは？
- ・外交官という仕事
- ・日アフリカ外交について
- ・質疑応答

3. 当日の様子と評価

初めて外務省主催の高校講座を開催することに加えて、アフリカという生徒にとってなじみのない地域を中心としたテーマであったことから生徒の反応が心配であったが、その懸念に反して非常に有意義な講演会となった。

講演者の方は高校生の特性や知識レベルを深く理解されており、アフリカという馴染みの薄い地域についても、平易な言葉と興味深いエピソードを交えてお話しいただいたため、生徒たちは終始熱心に聴講しており、アフリカという未知の世界を知ることで、かえって「外交」という仕事の広がりや重要性を新鮮な驚きとして受け止めている様子が見られた。

また、講演者自身の高校時代の経験や考えたことなどを織り交ぜながら進路選択の内容にも触れていただけたことで、生徒の知的好奇心を強く刺激するとともに進路選択についての意識づけについても効果があったように感じられた。

4. 講演会実施による生徒への影響・変化

講演終了後に希望者を対象とした座談会を実施した。事前申込者は少なかったが、当日の講演内容に触発された生徒からの飛び入り参加が多く、最終的に9名の生徒が参加し活発な質疑応答が行われた。

この座談会の様子や内容から感じられたことは以下のとおりである。

- ・具体的な職務内容や海外での生活について質問が及び、将来の進路として「外交」を意識する生徒が増加した手応えがある。
- ・特定の地域に限らず、グローバルな課題への関心を喚起できた。
- ・進路選択について、多角的な視点から考えるきっかけを得ることができた。

5. まとめと今後の課題

今回の「高校講座」は、外交官というグローバルな職域で活躍されている方からの直接的なメッセージを受け取ることができたことから、生徒たちに多大な刺激を与えるとともにグローバル教育およびキャリア教育の両面において高い教育効果が得ることができた。

外務省の「高校講座」は未実施校を優先して派遣先が決定されることから再度実施していただくことについては不透明だが、同様の講演会等を継続的かつ積極的に実施していくことがグローバル教育にとって必要だと考える。

【講演会の様子】

